

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第 1,787 号	氏名	古本朗嗣
論文審査担当者		主査教授 有吉 紅也	
		副査教授 河野 茂	
		副査教授 森内 浩幸	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、インフルエンザワクチン接種を受けた慢性呼吸器疾患患者における急性増悪に対して 23 価肺炎球菌ポリサッカライドワクチン (PV) 接種による相加的な予防効果を検討したもので研究目的として十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 九州・沖縄地方の 13 病院に通院中の慢性呼吸器疾患患者 191 名を対象に、オープンラベルのランダム化比較試験を行ない、 Kaplan-Meier 生存曲線および Cox 比例ハザードモデルで統計解析したもので、更に、血中の肺炎球菌血清型特異的 IgG 濃度を定量測定しており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 本研究の結果、特に慢性閉塞性肺疾患患者において、感染性急性増悪に対する PV 接種の相加的な予防効果が明らかとなった。さらに、2 年目以降の予防効果が減弱した原因として、肺炎球菌特異的 IgG 濃度の減少を示唆する結果が得られた。</p>			
<p>以上のように本論文は慢性呼吸器疾患患者の急性増悪の解明と予防法の改善に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			